

2018

Vol.36

11月10日

花水木

ハナミズキ

Kawaguchi Municipal
Medical Center



特集

病院ボランティアの活躍

p ② ~ p ③

目次

- p ④ 病院の取り組み：不整脈の完治治療
- p ⑤ KMMC Information：最新型血管撮影装置を更新しました
- p ⑥ 部署紹介：6A病棟・6B病棟
- p ⑦ KMMC Report：特定行為研修を終えて
- p ⑦ 医師の交代のお知らせ
- p ⑧ 四季の移ろい
- p ⑧ ミニギャラリー3ヵ月

川口市立医療センター
イメージキャラクター
「みみたース」



基本理念

市民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します

病院ボランティアの活躍

当センターでは、「患者さんの生活の質の向上にむけて自発的に援助を申し出るボランティア活動の場の提供とその活動を通してボランティア・患者・病院相互の質の向上につなぐ」を目標に平成6年より病院ボランティアを受け入れています。

平成30年9月末現在、38名の方にボランティア活動を通して、当センターを支えていただいています。

病院ボランティアは、車いす・ストレッチャーでの移送介助、病棟では、赤ちゃんの沐浴の手伝いや、患者さんの話し相手、また季節行事での飾り付けの協力など、さまざまな活動をしています。なかには自主的に車イスの点検や修理を行って下さる方もいらっしゃいます。正面入口では、初診の患者さんへの案内や説明、対応等にも携わって頂いており、ベテラン看護師のように丁寧に説明していただいている方もいらっしゃいます。その他にも、七夕、クリスマスの時期に開催しているコンサートでの演奏・コーラスもボランティアの方々に御協力いただいています。コンサートは今年で19年目となり、患者さんをはじめ、多くの方々に好評いただいています。

こうした中で、ボランティア活動の方々と職員との交流を深めるため、年に1度、両者の間で

会議の場を設けています。今年6月に開催された会議では主に意見交換を行い、職員の目線では気づき難い事柄をご指摘していただいています。今年度、構内のバス停において、バスを待っている患者さんの列が、他の患者さんの歩行の妨げになっているというご意見をいただき、早速バス停の床面に誘導ラインを設けました。このように、ボランティアの方々の貴重なご意見は大いに生かされています。



再来機模の滑り止めも、ボランティアの方の発案です

ボランティアのみなさんの活動動機は、「病気を患った際にお世話になった医療センターのためにお手伝いしたい」「病と闘っている人の力になりたい」「定年を迎えたがまだまだできること



をしたい」など、理由はまちまちですが、みなさま、人のために何かをしたいという強い思いは同じです。そして、ボランティアを通じて「友達が増えた」「患者さんの力になれることが嬉しい」「ここでのボランティア活動がいまの自分の生き甲斐だ」など、とても充実した日々を送っていらっしゃるようです。また、職員からは「一緒に協力して対応してくださった」「おかげで業務の負担が減った」「ボランティアの方に助けていただいた」といった感謝の言葉をよく耳にします。

当センターからの感謝の意を表するため、活動時間が500時間に達した方を4名、1,500時間に達した方を2名表彰させていただきました。

ボランティア活動に参加していただくには、原則として年1回開催しているボランティア講座を受講していただく必要があります。ご興味をお持ちの方は、ぜひボランティア活動にご参加ください。お待ちしております。

問い合わせ先：庶務課



1階外来ロビーにてボランティアによる演奏が行われています。
演奏は不定期で行われていますので、スケジュールについては
看護部にお問い合わせください。

不整脈の完治治療

循環器科 医師 磯 一貴

心臓はどうやって動いている？

みなさんご存じのように、心臓は全身に血液を送るポンプ機能を担ってくれている大切な臓器の一つですが、それほど有名な心臓でも実は知らないことも多いのではないのでしょうか。心臓は1日に約10万回も拍動していて、80年ではなんと30億回にもものぼります。このうち、たった10秒でも停止してしまうと生命の維持が危うくなってしまいますので、心臓がとても緻密に、かつ規則的に動いていることに驚くことでしょう。しかし、心臓がどうやって動いているか、を考える機会はありません。実は心臓には1拍ごとに規則正しく電気が流れており、その指令通りに心筋が反応して動いている、という仕組みになっています。

不整脈って何？心房細動って何？

この心臓に流れている電気に何かしらの異常が起こることを不整脈と言います。規則正しい電気の流れがバラバラになったら脈もバラバラになりますし、電気の流れが異常に早くなったら脈が早くなったりするのです。このように一言で不整脈と言っても色々な種類があることがわかります。その中でも、最近特に注目されている不整脈が心房細動です。心房細動は脈がバラバラになってしまう不整脈で、それが原因で死んでしまうことはありませんが、放っておくと心不全や脳梗塞を引き起こすことがあります。

心房細動の診断

診断には心電図が必須となりますが、不整脈に気づくきっかけを知っておくことは早期診断にとっても重要です。突然の動悸やめまい、脈が飛ぶ、脈が乱れる、動くとき胸苦しいなどが典型的な不整脈の症状としてあげられます。心房細動の自己診断、早期発見に特におすすめの方法が検脈です。検脈とは自分で手首の脈を測ることを言います。上記にあげたような症状が出た時に検脈を試みて、触れる脈に規則性が全くなかった場合、心房細動の可能性が高くなりますので、速やかに近くの病院や診療所を受診することをお勧めします。



検脈の方法

図のように手首の内側の親指側に3本の指をあて、脈をとります。脈が時計の秒針のように規則正しく打っていれば正常です。不規則に乱れていたり、速くて脈をとりづらい場合は心房細動が疑われます。

心房細動の治療

まずは薬による治療を行います。不整脈を抑える薬、脳梗塞を予防する薬などです。ただ、薬は心房細動を抑える事は出来ませんが、治すことはできません。現在唯一不整脈を治せる可能性のある方法がカテーテルアブレーションです。アブレーションは心筋焼灼術とも言い、電気の異常を引き起こす心筋を焼くことで、不整脈の元を断つ治療方法です。様々な研究やカテーテルの向上に伴って心房細動のカテーテルアブレーションの成績は向上し、早期の心房細動であれば9割前後の成功率を誇ります。当センターでもカテーテルアブレーションを受ける患者さんが徐々に増えてきており、近医の先生からカテーテルアブレーション目的で紹介していただくケースも増えてきています。カテーテルアブレーションは心房細動に限らず、様々な不整脈にも有効な治療法ですので、不整脈かもしれないと思われる方、不整脈と診断されていてカテーテルアブレーションの詳しい話を聞きたい方など、ぜひ紹介状をお持ちになり当センター循環器科にご相談ください。

最新型血管撮影装置を更新しました

画像診断センター 血管撮影担当 総技師長 蓮見眞一郎

当センターでは平成30年8月に既存の血管撮影装置の更新に伴い、県内初となるフィリップス社製最新型パイプレン（2管球）血管撮影装置(Azurion 7 B20/15)を導入しました。

血管撮影検査とは、血管(動脈、静脈)内にとても細い管(カテーテル)を挿入し、造影剤を注入しながらX線撮影を行い、各種の病気に対しての診断や治療を行う検査です。

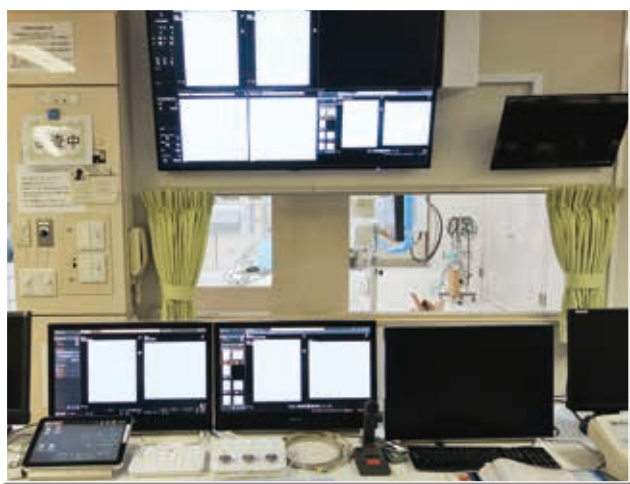
当センターでは、脳卒中、肝細胞癌、三次救急外傷患者の診断や治療を積極的に行っています。特に急性期脳卒中の治療に力を入れており、平成30年4月に埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワークの基幹病院の指定を受け、血管内治療指導医1名、専門医3名にて24時間体制で治療を行っています。

今回導入した血管撮影装置は、以前の装置と比べ画質、被曝対策の両面で数段優れており、より安全で質の高い医療を提供できます。

装置の大きな特長としては

- ごく少ない被曝量で、高画質・高精細な画像を得ることができます。
- 搭載されたフラットパネル検出器は、20インチの正面用ディテクターと15インチの側面用ディテクターを組み合わせることにより脳神経外科領域における治療の信頼性が更に向上します。
- 画像撮影中も操作室で別の作業ができるため、医師・技師それぞれ作業を効率的に行うことができ検査の手技時間を削減します。

装置の更新により心臓カテーテル検査、脳動脈瘤等の脳血管内治療、上肢や下肢の血管拡張術、胸腹部治療を中心とした検査・治療を行っていきます。これからも、スタッフ一同研鑽を重ね、地域の医療機関とより一層の連携を深めながら安心安全な医療を提供して参ります。



操作室



最新型血管撮影装置

部署紹介



6A病棟



6 A病棟の病室からは、東京方面に位置する高層ビルやスカイツリーなどがよく見えます。また、ディールームからは、春の桜・初夏の新緑・秋の紅葉・冬の雪景色など四季折々に色を変えるグリーンセンターが楽しめます。

スタッフは、看護師、病棟薬剤師、病棟クラーク、看護補助者、の総数40名と、病棟担当ソーシャルワーカーや栄養士がおり、他職種チームで常にコミュニケーションを大切に考え情報共有を心掛けています。

現在は、外来化学療法室との継続看護充実のため、独自性と専門性を活かしたケアを提供していくことを目的に、認定看護師の協力体制を整え、週2回の外来連携業務を行いながら患者さんの不安や疑問にお答えできるようにしています。また、担当科は血液内科、呼吸器内科、乳腺外科、とさまざまで、治療上感染を受ける可能性の高い患者さんが多く入院される病棟のため、感染防止には最も力を入れています。血液疾患患者の移植目的治療も、院内で唯一の無菌室を有効活用しながら対応しています。

長期間にわたる制限された入院生活や、入退院を繰り返し行わなくてはならない患者さんとそのご家族に対し、できる限り寄り添った看護が提供できるよう努めていきたいと思っています。

6B病棟



6 B病棟は脳神経外科、神経内科、消化器内科、呼吸器内科の混合病棟です。脳卒中急性期、神経難病、内視鏡手術、がん化学療法など幅広い知識とスキルが必要となる部署でもあります。

身体機能やコミュニケーション能力に障害をきたし、リハビリを必要とする患者さんも多く入院されています。自ら訴えることのできない患者さんの状態変化を見逃さずキャッチするためには注意深く症状を観察するスキルが必要です。快適な療養生活を送っていただけるよう、看護補助スタッフの協力を得ながら満足していただける日常生活援助の提供を心掛けております。また理学療法士による早期離床、機能回復のためのリハビリや、病棟薬剤師によるがん化学療法等に使用する薬剤の管理も不可欠です。このような協力体制のなかで患者さんの回復をサポートしています。退院支援については、回復期リハビリテーション病院や療養病院への転院が必要となる患者さんや社会資源を投入しての退院となる患者さんも多く、新たな療養の場で安心して生活を送ることができるよう患者支援センタースタッフと協力してサポートを行っています。

6 B病棟はこれからも一人ひとりの患者さん、ご家族の心に寄り添い、安心して入院生活が送れるよう、病棟スタッフ一丸となって頑張っていきます。

特定行為研修を終えて

看護部 飯塚 貴美

特定行為とは、医師が行ってきたさまざまな処置の一部を、専門的な教育を受けた看護師が「診療の補助」として手順書に沿って実施できるように指定した専門行為のことを指しています。昨今、高齢者対応や在宅医療の重要性が叫ばれ、そこでは介護、看護だけでなく医療行為の必要な場合も多く存在します。一方で、医師はさまざまな治療・処置を自分たちで行わなければならない、負担は大きく、患者さんの思いに応えられない場合もあります。その双方の課題を解決する一つの方法として、一定の看護師に医師にのみ認められている処置行為のうち一部の行為（特定行為）を行うことが認められました。

現在は38種類の行為が特定行為とされています。たとえば、縫合などの創傷処置、褥瘡の壊死組織の除去、動脈血液中の酸素や二酸化炭素濃度を測定するために動脈から採血を行うこと、疼痛や発熱・脱水などへの薬剤の選択や使用といった非常に多岐にわたるものが定められています。これらを医師の補助として一定の研修を受けた看護師が実践できるようになりました。

今回、私は創傷管理に関する特定行為の研修を受けたことで、創部等に入れられたドレーンを抜くこと、褥瘡などで発生した壊死組織を取り除く処置などを実施することができるようになりました。今後、学んできたことを活かして、患者さんの傷が早く良くなるように、また、たとえ傷（創傷）があっても安心して自宅で過ごすことができるように、医師とともに創傷管理を行っていきたいと考えています。

医師の交代のお知らせ

新 任

シオハラ ヒロシ
塩田 宏嗣

10月1日付

神経内科 部長

川口市の地域医療に貢献できるよう努力してまいります。

オサダ アツヨシ
長田 篤祥

10月1日付

形成外科 医長

患者さんに寄り添った医療に努めてまいります。

ヨシダ キクコ
吉田 杏子

10月1日付

皮膚科

よろしくお願いいたします。

カミヤ コウキ
神谷 光樹

10月1日付

脳神経外科

勉強させていただきます。よろしくお願いいたします。

スズキ サトシ
鈴木 智史

10月1日付

整形外科

よろしくお願いいたします。精一杯頑張ります。

イナハラ ユウヤ
稲原 裕也

10月1日付

脳神経外科

地域のみなさんの力になれるよう精一杯頑張ります。

イタガキ ヨウスケ
板垣 陽介

10月1日付

整形外科

よろしくお願いいたします。

退 任

沖田 英久

9月7日付

形成外科 医長

田杭 具視

9月30日付

皮膚科

森 史

9月30日付

脳神経外科

岩間 彦樹

9月30日付

整形外科

坂井 映太

9月30日付

整形外科

四季の移ろい

初秋の風景

酷暑、ゲリラ豪雨、巨大台風に振り回された夏でしたが、ふと気がつくとも朝夕の風は秋のそれになっています。そして仰ぎ見る高い青空に浮かぶすじ雲やうろこ雲にも秋を感じます。

吉田兼好は徒然草で「秋は夕暮れ。夕日の差して山の端いと近うなりたるに、からすの寝所へ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。…中略… 日入りはてて、風の音、虫のねなど、はたいふべきにあらず。」と書いています。街中ではなかなか鳥が寝床に帰っていく様子をみることはできませんが、「日入りて虫の音を聞く」ことはよくありますね。病院でも救急の出入口から出て駐車場に向かう道で、カエルの声、蝉の声が変わって、今は虫の音が聞こえはじめ、秋への移り変わりを感じさせてくれます。

ところで天気の変化や季節の移ろいを見守っている神社があるのをご存知ですか? 「気象神社」といい、高円寺氷川神社の末社です。もともとは陸軍気象部構内に造営されたもので、祭神は八意思兼命(やごころおおもいかねのみこと)(知恵の神)です。本来終戦後のGHQによる「神道指令」(国家神道の廃止)で撤去されるはずが、漏れて残ったという日くがあり、強運の神様とも言われています。この神社では巫女さんが手作りした季節、月ごとのスタンプを用いた御朱印がいただけます。巫女さんはお参りにきたひとりひとりと話をしながら、スタンプを押してください。その心遣いに思わず「若いのに偉いな・・・」と思った次第です。ちなみに伺った日は最近には珍しく太陽が輝いていたため、お日様のスタンプです(その日の天気でかわるそうです)。(ひ)



ミニギャラリー3ヵ月

「脳いきいき 臨床美術作品展」では、力強く描かれた鯉やアジサイが壁一面に飾られ、院内を夏の暑さを忘れさせてくれる、涼しげな空間にしてくれました。

「亀井政子と仲間達展」では、川口市役所をはじめとした日常の風景や、動物、花など、たくさんの絵が院内を明るく彩ってくれました。

「和田奈緒美展」では、福島県の被災地の風景や人々の表情が表現され、多くの方がその温かい絵に癒されていました。

どの展示においても、ご覧になったかたから「元気になりました」「心に残りました」など、たくさん感想をいただきました。

ミニギャラリーは、1階中央通路と、地下1階総合健診センター前で開催していますので、来院された際はどうぞご覧ください。また、ホームページで過去の展示もご覧いただけます。

◆脳いきいき 臨床美術作品展 (8月)◆



◆亀井政子と仲間達展 (9月)◆



◆和田奈緒美展 (10月)◆



編集後記

表紙を飾っている当センターのイメージキャラクター「みみたくん」。3体そろって「みみたず」ですが、「よく聞き・よく見・よく話す」がそれぞれのモチーフになっているそうです。今回は秋っぽく、「すすきと「みみたず」」のテーマで表紙を飾っております。引き続きご愛顧くださいますようお願いいたします。

発行責任者 川口市立医療センター 大塚 正彦
編集 広報委員会

〒333-0833 川口市西新井宿180

☎048-287-2525(代表)

HP <http://kawaguchi-mmc.org>